

個人質問

議会事務局
処理欄

令和 4年 2月 9日 12時41分 受付

質問順位 第 8 番

武豊町議会議長 石原 寿朗 殿

武豊町議会議員 福本 貴久

一般質問の通告について

令和4年第1回武豊町議会定例会において、次のように質問したいから通告します。

質問事項	質問の要旨(具体的にご記入願います)
<p>1.大規模停電に対する対策について</p>	<p>【趣旨説明】 台風の影響や地震が発生すると大規模な停電が生じることがある。そして停電が長引けば長引くほど不安や混乱は広がって行く。自然災害による大規模停電は、停電範囲が被害地以外にも広がる可能性もあり、復旧には時間を要する。 近年の日本で起こった大規模停電の事例を見ると、平成30年9月の北海道胆振(いぶり)東部地震では、2日間に渡り最大約295万戸が停電。北海道全域が停電するという異例の事態となり、地震による被害がなかった地域でも、数日に渡り停電が発生した。また令和元年9月の房総半島台風では、関東地方を中心に2週間以上に渡り最大約93万戸が停電。台風による暴風雨及びその飛来物による配電設備の故障が相次いだことで、特に千葉県においては、被害の範囲が広く、発生から1週間経っても8万戸が停電から復旧しないなど、長期間の停電に直面した。これらのケースでは例外なく避難所も停電する。そして災害発生時の拠点となる避難所には、高齢者や子ども、配慮の必要な方々も多く集まり被災直後で不安を抱える中、平常通りの生活ができない不便さが重なり大きなストレスにもなる。避難している、していないに関わらず、皆が「電気があれば」と思うことは当然のことである。 そのような時でも太陽光発電が自宅の屋根等に設置してある家庭であれば、何かの原因で大規模停電が起ころっても、自宅で使用する電気は発電されるので、建物さえ無事であれば電気のある生活ができる。 本町では令和4年度より、経済産業省・環境省が進めている住宅用太陽光発電システムを中心とする補助制度「ZEH」を導入する予定である。この補助制度を使っても、かなり高額な装置であるため、多くの家庭に太陽光発電施設が設置されるようになるには、長い年月がかかると想像できる。 いざ災害発生時に大規模停電が起こった場合、自宅でも避難所でも同様に、夏場であれば、暑さ対策として冷房器具などを可動させる必要があり、冷蔵庫や冷凍庫なども食品が痛まないように動かしたいところである。冬場であれば寒さ対策として、暖房器具などが必要となる。夜間であれば照明器具などに、そして情報収集にはテレビやラジオ、連絡手段としてスマートフォンなどの充電に電気は必要不可欠である。 普段の生活でも災害や有事の際にも電気は私たちの生活にはなくてはならないものである。みらい(会派)では「大規模停電に対する対策を講じられたし。」と会派要望を提出している。そこで、以下質問する。</p>

【質問事項】

①災害発生時、公共施設に停電が起きた場合の電気のバックアップ体制は。
また、避難所が開設されている状況下で停電が起きた場合の対応は。

②大規模停電が起きた場合の町民への対応は。

③各家庭で蓄電若しくは発電する設備を設置又は保有しているか否かの町民アンケートを実施し、把握するように調査をすべきと考えるがどうか。

④災害発生時においても自力で対応ができる家庭を増やすことにより、職員・消防関係者・防災ボランティア・民生委員などの方々が、真に援助を必要とする方に重点が向けられるような体制をつくることも大切だと感じる。公助による人員や体制・物資などの支援にも限界がある。災害発生時に停電が発生した時でも自宅に損壊が無く、電気さえあれば避難所でなく自宅で過ごしたい、また過ごすことのできる町民は多いのではないか。そこで自助の観点から各家庭において、自宅の屋根などの太陽光発電施設への補助制度だけではなく、安価で所有できる自家発電機を配備した場合にも補助制度を受けることができるように、調査・研究をすべきだと考えるがどうか。